
INPUT [ファイル名] あるいは 'ファイル名文' ;

機能：

INPUT は TSP のコマンド 列を外部ファイル (ディスク) からよみとり、それを 1 組のコマンドとして実行します。

使用法:

INPUT によって、既に出来てディスクに保存しているバッチ型の TSP プログラムを対話型のターミナルセッションに組み込むことができます。INPUT ファイルは完全な TSP プログラムである必要はありません。自分で作ったプロシジャ (PROC) のようによく使われる部分プログラムとか、あるいはロードすべきデータの表とかをディスクファイルにしておいて、必要なときに INPUT してもよいのです。

INPUT は 1 個のファイル名だけを引数にでき、引用符で括られていない場合は、このファイル名は TSP の変数名と同じ制約に従わないといけません。つまり 8 文字以下に限られますし、ファイルの拡張子は除かないといけません。もしもっと長いファイル名やもっと複雑な名前を使いたい場合は引用符でくくります。もし単純な不完全なファイル名が与えられると、.TSP という拡張子があてられます。

対話モードで、もしファイル名が与えられていなければ、ファイル名の入力が促進されます。対話モードで INPUT を用いて一連のコマンドを読み込んだり保存したいけれど、実行したくないとき、インプットファイルの最後で END の代わりに EXIT コマンドを用います。これはコレクトモードで EXIT コマンドを使うのと同じです。次に REVIEW コマンドで読んで、選択した部分を EXEC します。

バッチモードでは、すべての INPUT コマンドは読み込まれると直ちに実行されますので、(IF; THEN; で) ファイルを条件付きで INPUT することはできません。また、バッチモードでは、大きな PROC を定義するのに INPUT を用いたりする場合は、バッチファイルの最後でいくつかの INPUT コマンドをグループ化すると、PROC をもっと簡単に呼ぶことができるプログラムを読むことができるようにすることを勧めます。INPUT を入れ子 (NEST) にすることはできません。つまり INPUT に使われるファイルのなかに INPUT があってはいけません。これらは全て同じ原理で動いているので、同じ制約はコレクトモードにおいても LOGIN.TSP ファイルでも同じです。

オプション:

PRINT/NOPRINT は、アウトプットファイルにインプットファイルの内容をリストします。すでに完全にデバッグ済みの長いインプットファイルに対して、このリストを省略するときは NOPRINT を用いることができます。NOPRINT オプションは、インプットファイルの先頭に NOPRINT; コマンドを置くのと同じです。その範囲はすべての入れ子構造のインプットファイルに拡張されます。NOPRINT モードでインプットファイルを解釈している最中にエラーが生じたとき、そのインプット行がプリントされます。

例:

```
1? INPUT ILLUS
Do you want the output printed at the terminal(y/n)? [y]N
Enter name of TSP output file:
```

この例では、カレントディレクトリーにある ILLUS.TSP から例示用の例を読み込んで、アウトプットを ILLUS.OUT に書き込みます。実行が終わったらターミナルにプロンプトが再び現れます。その行番号は INPUT によって読み込まれた行数に依存します。REVIEW によって読み込まれた内容が全て示されます。